SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2004) 79 (1) Feb. 2004

GSJ
コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

巻頭言『**生きものに生き方を学ぶ**』森脇和郎

大阪大会ニュース2　**日本遺伝学会第76回大会案内**

日本遺伝学会後援【国際会議】
第2回アジア染色体コロキウムのご案内　向井康比己

日本遺伝学会木原賞及び奨励賞　候補者推薦のお願い

国立遺伝学研究所大学院説明会
財団による研究助成の募集要綱新着概要　4件

◆関連学会による国際会議紹介◆　解剖学会、動物遺伝学会

＜日本学術会議レポート＞
「日本学術会議法の一部を改正する法律」について他

生物科学学会連合会議報告：第11回会議の要録

本会記事　**2004年度会員名簿作成の協力依頼**
2004年度は会長・評議員選挙の年

日本遺伝学会

http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html

GSJ　コミュニケーションズ　79-1

日本遺伝学会広報誌　　日本遺伝学会幹事会責任編集

目　　次　　頁

1．巻頭言　生きものに生き方を学ぶ　森脇和郎 …… 3
2．日本遺伝学会第76回大会案内　大阪大会ニュース（その２）…… 5
3．2004年度日本遺伝学会木原賞及び奨励賞候補者推薦のお願い …… 7
4．【日本遺伝学会後援】
　第２回アジア染色体コロキウムのご案内　向井康比己 …… 8
5．国立遺伝学研究所　大学院説明会　2004/6/12 …… 9
6．第16回国際解剖学会議（IFAA）　2004/8/22～27（京都）…… 9
7．第29回国際動物遺伝学会議（ISAG）2004/9/11～16（東京）…… 10
8．財団による研究助成から
　東レ科学技術賞・科学技術研究助成 …… 6
　持田記念医学薬学振興財団学術賞・研究助成ほか …… 13
　加藤記念国際交流助成 …… 14
　化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励 …… 14
9．日本学術会議レポート
　1）「日本学術会議法の一部を改正する法律」案について …… 15
　2）第４部会の作業から …… 18
　3）遺伝学研連遺伝子操作専門委員会 …… 19
10．生物科学学会連合第11回会議の記録から …… 20
11．本会記事　平成17年度科学研究費補助金審査委員候補者推薦作業 …… 21
　資料　平成14・15年度科研費細目別課題申請数 …… 21
　日本遺伝学会幹事会ノート …… 22
　2004年度は会長・評議員選挙の年：選挙管理委員会委員委
　嘱／本年度会員名簿作成作業に協力を（会費納入のお願い）…… 24
　GGS 論文賞：2004年第１号掲載論文から審査対象に …… 24
　会員異動＆寄贈図書（学会事務　鈴木真有美）…… 27
12．会員通信 …… 28

会長日々☞　２／２　科研費審査委員候補者推薦数を先の遺伝学研連で審議了承をえたが，他の研連との調整が手間取っていた．この日に星生科連委員長による説明をうける．遺伝学研連の今年の分担数が細目「進化生物学」第２段でゼロであることが分かった．すでに昨年度と同様の考え方で選考を各学会で進めて頂いているので大変迷惑をかける結果になった．遺伝学会では３／８に投票の取りまとめを行い入力票記入の作業へ．評議員へ報告の準備をする．

２／16～17　学術会議連合部会にて，２月10日に学術会議法の一部を改正する法律案は閣議決定され，国会に同日，提出されたとの報告があった．学術会議ホーム頁に「法律案について」は掲載されている．http://www.scj.go.jp/ 各紙が一斉に関連記事を報道した．来る４月19日の学術会議142回総会では何処迄すすむのか．科学者コミュニティーとして学術会議は社会に責任ある活動が一層求められている．総合科学技術会議とは緊張ある関係を築きたいとは，黒川会長の大改革の弁である．学術会議の大きな転換点を迎えている．学会でも大いに議論をおこさなければならないと思う．

今年は遺伝学会の選挙の年である．選挙権を持つ会員を明示するために，会員名簿を確定する事が大切となる．滞納者に会費納入を是非とも訴えたい．手続きとして，５月にはまず３人の会長候補が評議員によって選出され，その候補者について普通会員全員による投票が行われる．同時に26人の評議員の選出も．選挙全体の進行を担当する選挙管理委員３名を幹事会を通して決定し，先日会長名で委嘱された．

木原賞と奨励賞受賞候補者の推薦時期になった．優れた若手研究者が沢山奨励賞候補者として推薦される事を願って止まない．奨励賞を推薦するシニヤー研究者のご協力を心から望む．これからの編集方針：４月号に遺伝学と遺伝学会についての原稿を揃えたい．６月号は大阪大会特集号，８月号は国際会議の報告，10月号はカラー印刷で BP 賞特集に．12月号は大阪大会を振り返ってと，GGS 論文賞の選考直前を考えた特集を企画する．遺伝学会に愛着を持つ人びとに失望されないよう努力を自らに誓う．仕事の進みと裏腹に，桜開花は早い．異様な事件が世界に充満．厳しい研究教育環境を克服しようと奮闘する友を思い，成功を祈ってコラムを閉じる．（石和　３／15）

巻頭言

生きものに生き方を学ぶ

理化学研究所　森脇　和郎

大学院時代は発生生理化学研究室を主宰する石田寿老先生の下で，春はカエルの卵，夏はメダカの卵，秋はウニの精子を材料にATP量に対する代謝毒の効果を調べるというテーマに取り組んでいた．ATP測定の感度をなるべく高くして，少ない材料でデータが出せるようにしようと努力したが，終戦後10年もたたない時代のことで試薬の純度が低く苦労したことを思い出す．しかし，データの再現性が低かったのは試薬のせいだけではなく，生きものの材料の方にも問題があった．春先にヒキガエルの卵を関東一円の南から北まで採集して使ったが，代謝毒に対する反応に地域差があることに悩まされた．今であれば「代謝毒感受性の地域集団間の遺伝的差異」という真っ当なテーマになり得るが，当時は，生物学的原理は個体レベル，集団レベルの差異を超えて成立すべきであるという考え方が強かった．しかし，自然集団の生きものを相手に実験したものにとっては，生きものの複雑性を思い知らされたというのが実感であった．

大学院を終り1959年に国立遺伝研に就職したが，当時は酒井寛一，木村資生，岡彦一という遺伝学者として一流の方々が活躍しておられ，遺伝学を基盤として生物集団の構成や変動の機構に関する研究が盛んに進められていた．それまでに遺伝学を十分に勉強する機会がなかったということもあり，発生生理化学において生きものの複雑性に打ちのめされていた若者にとっては，遺伝子を基盤として生きものを解明しようという遺伝学のアプローチに大いに触発された．

また，当時は丁度分子遺伝学の黎明期であり，Reverse Geneticsの方法論は大変魅力的に思われた．たまたま当時所属していた細胞遺伝部の上司であった吉田俊秀先生が米国NIHに留学し，マウスミエローマ株を持って帰られた．この腫瘍細胞はひとつのクローンのイムノグロブリンとこれに対応するメッセンジャーRNAを大量に作り出す特徴があった．そのRNAを抽出して別の培養細胞に取り込ませ，グロブリンの合成を誘導しようという仕事に取り掛かった．現在ではカルシウム燐酸ゲルを使えば細胞への核酸の取り込みを再現性高く起こさせる事が出来るが，当時そのことは知られておらず，若気の至りで考えたような誘導はなかなか起こらなかった．当時としては先端的な試みであったが，細胞の中は我々が考えるよりは遥かに複雑であることを思い知らされた．

そのころ細胞遺伝部長になっておられた吉田先生は，野生のクマネズミの染色体多型に凝っておられ，遂に広くアジア全域にその探索活動を広げようということになった．同じ部門の所員としてそのお手伝いをするために，私は血清タンパクの多型を分担することになった．1960年代以後数回にわたってアジア各地から中近東，アフリカまで，クマネズミ遺伝的多型に関する海外学術調査のお供をした．今日のようにどことでも電話やEメイルが通ずるということはなく，現地に器材を送り込むにも苦労したし，ひとたび現地に入れば，訳の判らない手数の掛かることが多かった．遺伝研の実験室で進めていた分子・細胞レベルの研究に比べると大きなギャップがあり，現地で仕事をしていると，こ

れが本当に意味のある研究に繋がるのだろうかという不安に襲われることもあった．しかし，これらの調査で得た血清タンパクの分析をしてデータを出し，論文にまとめているうちに，材料となったネズミの生息していたアジアの自然界の光景と，分析した血清タンパク多型のデータとが一体のものであると感ずるようになった．大学院を終わるとき生き物の複雑さを感じたのはやはり間違いではなかった．もう一度，生き物を個体・集団として捉らえる事が必要ではないかと考え始めた．

このことが契機となって，1970年代，分子・細胞レベルから，野生ネズミの個体・集団レベルの研究に移り，自分が主体になって野生マウスを日本中から採集し，遺伝子の変異を染色体，タンパクおよび遺伝子のレベルで分析する仕事を始めた．クマネズミからマウスに対象を変えた理由は，クマネズミには近交系がなく遺伝的な実験が出来ないという事であった．その点野生マウスは実験用マウスと同じ種であり，断然有利であった．

野生マウスの研究では，城石（遺伝研），米川（都臨研）両博士を始め大勢の国内外の共同研究者の協力で，世界のハツカネズミ亜種は約100万年前に分岐し，現在少なくとも3つのグループに分かれることが判った．実験用マウスの祖先がヨーロッパ産亜種であることも明らかになった．このような遺伝系統学的な研究と並んで，何とか野生マウスを使って生命機構のユニークな研究は出来ないものかと考えていたが，城石博士が野生マウスから極めて高率な遺伝的組み換えを示す変異体を見つけ，その分子機構を解析されたことは大きな成果であった．また，宮下博士（香川大）を中心に進められてきた肺腫瘍に対する優性抵抗性遺伝の研究も野生マウスを使って始めて見出されたものである．

近年ヒト・マウスともにゲノムの全塩基配列が解析され，ライフサイエンスの次の目標はゲノム機能の解析であると云われている．

しかし，上に挙げた野生マウスの例からも判るように，表現型として捉えられる生物機能は，塩基配列だけから予測することは出来ない．生き物に生きかたを学ばなければならない．このためには，個体レベルの様々な表現型に立脚したアプローチが必要であり，数多くの変異個体系統を用意しなければならない．また，ひとつの表現型にたいしても遺伝的背景に存在する複数の遺伝子が関与していることが知られるようになり，実験用系統の遺伝的背景を均一化することが求められる．近年の遺伝子操作技術の進歩によって作り出された多数のトランスジェニックおよびノックアウトマウス系統も保存しなければならない．研究者からのこれらの要求を満たすために，研究者が研究の傍ら実験系統を維持し提供するということは，研究の発展を図る上でも好ましくない．

2001年理化学研究所は筑波研究所にバイオリソースセンターを新設し，マウス，シロイヌナズナ，培養細胞，遺伝子 DNA を国内外から収集・保存・提供するという事業を始めた．2002年にはこれらの事業はナショナルバイオリソースプロジェクトにおける中核機関となり，国の支援を受けることになった．半世紀も前から必要性が繰り返し要望されていた事業がいよいよ始まったと云えよう．このセンターの事業が，わが国の研究者が生き物から生き方を学ぶことに役立てば真に幸いである．

森脇　和郎
理化学研究所
研筑波研究所　所長／バイオリソースセンター長（兼務）
〒305-0074　つくば市高野台3-1-1
電話　029-836-9044
ファックス　029-836-9144

大 会 ニ ュ ー ス　（そ の 2）

日 本 遺 伝 学 会 第 76 回 大 会 案 内

2004年の第76回大会は，大阪大学コンベンションセンターを会場に，下記のような企画で準備を進めております．多くの方々の参加をお待ちしております．

大会ホームページ（http://www.biken.osaka-u.ac.jp/IDEN76/）ではより詳細な最新の情報をご覧いただけます．

1．会　　場　大阪大学コンベンションセンター（吹田キャンパス）
〒565-0871　吹田市山田丘1-1

2．会　　期　2004年 9 月27日(月)，28日(火)，29日(水)

3．企　　画　☆一般講演　9 月27日(月)：午前・午後　28日(火)：午前　29日(水)：午前
大会ニュース（その 1）でもお知らせ致しました通り，一般講演を重視したプログラムを組む予定です．今回も PC による発表のみといたします．USB フラッシュメモリーにデータを保存してお持ち下さい．会場備え付けの PC（Mac・Windows）に接続して使用していただきます．なお ご都合の悪い方は前もって事務局へご連絡をお願いいたします．
☆シンポジウム　9 月29日(水) 午後
5 件程度を予定しております．現在準備委員会では進化関連で 1 件，分子遺伝（複製・修復・突然変異）で 1 件を企画しています．遺伝学の広い分野をカバーしたいと考えており，会員の皆様からのご提案をお待ちしております．ご提案のある方は2004年 3 月31日(水)までに事務局へお申し出ください．
☆イブニングレクチュア　9 月27日(月)
遺伝学の基本的な問題について，会員全員が興味を持てるテーマで，2 ～ 3 題程のレクチュアを企画しております．
☆特別講演・総会　9 月28日(火) 午後
☆懇　　親　　会　9 月28日(火) 夜　於：ホテルオオサカサンパレス（吹田市千里万博公園）
☆市民公開講演会　9 月25日(土) 午後
会場：大阪市立大学文化交流センター（大阪市北区梅田　大阪駅前第 2 ビル 6 階）
遺伝学の身近な話題をテーマに，企画を進めております．

4．関連集会　会期中，またはその前後に関連集会を予定されている方は，2004年 3 月31日(水)までに集会名・期日などを準備委員会事務局へご連絡ください．

5．参加・講演申し込み
本大会でも，参加・講演申し込みは，大会ホームページ（http://www.biken.osaka-u.ac.jp/IDEN76/）の参加・講演申し込みフォームから申込んでいただきます．ここに詳細な情報は逐次掲載していきます．なおホームページをご覧になれない方は，ご面倒ですが事務局へハガキで参加・講演申し込み用紙をご請求ください．

6．講演要旨締切
2004年 7 月31日（郵送による場合も締切は同じです．事務局宛郵送してください）

7．費　　用　今号綴込みの払込票にて郵便局で払込みをお願いいたします．
1）大会参加費　一般 6,000円　学生 3,000円（講演者は無料）
（8 月 1 日以降の払込み）　一般 7,000円　学生 3,000円
2）懇親会費　　一般 6,000円　学生 3,000円
（8 月 1 日以降の払込み）　一般 7,000円　学生 4,000円

8．本大会では，保育室を準備する予定です．ご利用を予定されている方は，５月31日(月)までに準備委員会へご連絡ください．準備の都合上，ご利用される方の概数を把握しておきたいと思います．ご協力をお願いいたします．

9．日本遺伝学会第76回大会準備委員会

大会準備委員長　品川日出夫
大阪大学微生物病研究所遺伝子生物学分野
〒565-0871　吹田市山田丘3-1
TEL: 06-6879-8317　FAX: 06-6879-8320
E-mail: shinagaw@biken.osaka-u.ac.jp

大会準備副委員長　原島　俊
大阪大学大学院工学研究科応用生物工学専攻
〒565-0871　吹田市山田丘2-1
TEL: 06-6879-7420　FAX: 06-6879-7421
E-mail: harashima@bio.eng.osaka-u.ac.jp

10．連絡先

準備委員会事務局　菱田　卓・森下　卓・勝野　真子（秘書）
大阪大学微生物病研究所遺伝子生物学分野
〒565-0871　吹田市山田丘3-1
TEL: 06-6879-8319　FAX: 06-6879-8320
E-mail: iden76@biken.osaka-u.ac.jp

平成16年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦要領の概要について

記

．東レ科学技術賞（概要）

１．候補者の対象……貴学協会に関する分野で，下記に該当するもの
(1) 学術上の業績が顕著なもの
(2) 学術上重要な発見をしたもの
(3) 重要な発明をして，その効果が大きいもの
(4) 技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの

２．科学技術賞……２件前後．１件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円

３．候補者推薦件数……１学協会から２件以内

４．推薦締切期日……平成16年10月８日(金) 弊会必着

．東レ科学技術研究助成（概要）

１．候補者の対象……貴学協会に関する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的基礎研究に従事しており，今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）

２．研究助成金……総額１億３千万円．１件３千万円程度まで　10件程度．

３．候補者推薦件数……１学協会から２件以内

４．推薦締切期日……平成16年10月８日(金) 弊会必着

＊各推薦書用紙は，ホームページからもダウンロードできます．(平成16年６月中旬から可)
URL : http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者の推薦のお願い

下記の規程に添って木原賞および奨励賞の候補者の推薦をお願いします．

なお，推薦される方は，もし被推薦者が受賞者となられた場合は，当学会誌 GGS に英文総説の執筆をお願いしたい旨お伝え下さい．

この「お願い」は，本冊子 78-6 に掲載されたものですが，新年度に新しく学会員になられた方の為に，ここに再び掲載致しました．木原賞および奨励賞推薦書の必要な方は遺伝学会事務室までご一報下さい．

日本遺伝学会会長　　石和　貞男

日本遺伝学会学会賞および奨励賞に関する規程（抜すい）

（目的）

遺伝学の進歩を促し，すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する．

（賞の種類）

1. 日本遺伝学会木原賞
   遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者（原則として会員）に授与する．
2. 日本遺伝学会奨励賞
   遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い，将来の成果が期待される比較的若い研究者（原則として40歳以下の会員）に授与する．

（賞の内容）

1. 日本遺伝学会木原賞
   賞状，メダルおよび副賞としての賞金からなる．
2. 日本遺伝学会奨励賞
   賞状および副賞としての賞金からなる．

（賞の選考）

賞の選考は下記に定められた選考委員会と選考方法によって行う．

1. 選考委員会
   全会員を対象として評議員会により選出された若干名と，これに会長が加わり，選考委員会を構成する．会長以外の選考委員は任期を２年とし，連続して２期（４年）をこえ選考委員としてとどまることはできない．
   選考委員会の委員長は会長がつとめるものとする．
2. 選考方法
   会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い，受賞者を決定した上で評議員会の承認を得るものとする．日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として各年１名とするが，適当な候補者がない場合は授賞は行わないものとする．
   日本遺伝学会奨励賞については各年２名以内を選ぶものとする．

附　則

昭和57年11月20日　日本遺伝学会総会承認
昭和60年10月14日　１部改正
昭和63年２月６日　１部改正
1989年10月14日　１部改正
1992年10月23日　１部改正

日本遺伝学会後援国際会議

第2回アジア染色体コロキウムの案内

向井康比己（大阪教育大学教養学科生命科学）

本年5月20から22日に韓国忠南大学にて第2回アジア染色体コロキウム（Asian Chromosome Colloquium 2, ACC-2004）が開催されます．主催者は，韓国側：Jae-Wook Bang（方在旭）忠南大学教授と日本側：向井康比己（大阪教育大学教養学科）で，植物染色体関連のアジア各国からの研究者，学生約200名が参会する予定です．染色体基礎科学，進化的観点，ゲノム等の広い分野で招待講演，一般講演，ポスター等を含めて70〜80題の発表が予定されています．

アジア染色体コロキウムは3年ごとにアジア各国で開催されている植物染色体研究に関する国際学会で，日本，中国，韓国，タイ，インドの各国から数名の研究者がステアリングコミッティーを形成しています．日本からのコミッティメンバーは福井希一氏（大阪大学大学院工学研究科）と谷口研至氏（広島大学大学院理学研究科）です．日本では，植物染色体研究者のコミュニティが，日本染色体コロキウムとして1990年から毎年研究会を行っており，昨年は神戸大学で13回大会が60名の参加で開催されました．日本，中国，韓国のそれぞれの染色体研究者のコミュニティが合同で国際会議を開くことにより，これまで世界の染色体研究のフォーラムがヨーロッパとアメリカを中心としたものであったのを，アジアにおいても染色体研究のフォーラムを形成することを目的としています．

第1回目は2001年9月に中国の北京で開催され，約200名が参加しました．このときのオーガナイザーは中国農業科学アカデミー作物育種・栽培学研究所の辛志勇所長と大阪大学の福井希一氏でした．120もの講演発表があり，ワークショップでは2会場に分かれて行いました．日本からは30名ほどが出席して，研究発表を行いました．日・中・韓の新進気鋭の研究者を中心とした研究発表の活発な討論は，染色体研究分野におけるアジアのエネルギーと底力を感じ取りました．この大会のプロシーディングは中国農業科学技術出版社から『Advances in Chromosome Sciences Volume 1 —Chromosome Sciences in the New Millennium』とのタイトルで2002年に単行本として出版されました．

北京の第1回大会の成功を踏まえ，第2回大会は最近開通したばかりの新幹線でソウルから50分ほどの忠清南道大田市にある忠南大学の国際会議センターで行われます．大田市は日本で言えばつくば市と同じ学術研究都市で，近くには温泉もあるそうです．第2回大会のテーマは『Chromosome Science in the Post Genome Era』で，ポストゲノム時代を迎えての染色体研究の新しい展開をめざしています．トピックとして Aneuploidy, Centromeres, Chromosome evolution, Genome organization, Meiosis, New methodologies, Post-genomic era studies Prokaryote chromosomes, Sex chromosomes, Telomeres などがあがっています．発表が予定される内容は，染色体研究の基礎的な分野はもちろんのこと，進化学的あるいは系統分類学的観点や，植物ならではの倍数性の問題，品種改良等の育種学的応用あるいは医薬用植物の医学的応用など幅広い分野にわたっています．活発な発表討論をとおして，染色体レベルで遺伝子・ゲノムを理解し，ポストゲノムへの研究の活路が見出せればと思っています．

遺伝学会の会員の皆様にも多数参加していただき，日本の染色体研究のレベルの高さをアピールすることにより，アジア諸国全体のこの分野のレベルアップにつながれば，主催者として嬉しい限りです．

参加申込や詳細に関しては，http://www.acc-2004.org のアドレスで見て下さい．

日本側問い合わせ先：事務局　gsuzuki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

（大阪教育大学　鈴木　剛，電話番号：0729-78-3660）

参考までに Bang 教授の招待状を以下に示します.

Dear Colleague:

You are invited to attend The 2nd Asian Chromosome Colloquium (ACC-2004), May 20–22, 2004 at the International Convention Center of Chungnam National University in Daejeon, Korea (South). This E-mail is a Call For Abstracts. The scientific programme comprises Special Lectures of invited speakers, Plenary Lectures regarding the recent and relevant aspects of the chromosome research, Poster Presentations covering all aspects of basic, evolutionary and genomic cytogenetics and Workshops for some selected posters.

APPLICATION DEAD LINE: Wednesday, March 31, 2004.
ABSTRACT DEAD LINE: Saturday, April 10, 2004.

The application form will appear in the mid of January through March, 2004.

WEB ADDRESS: http://www.acc-2004.org

We sincerely hope that the Colloquium will provide an opportunity to review different field of Cytogenetics and will be served as a foundation of a stepping stone for further cooperation among the chromosome researchers. We would like to welcome all of your suggestions and comments for better hosting of the Colloquium. We look forward to meeting all of you during the ACC-2004. Please let me know your postal address for the Programme and other information for the meeting if you receive this mail.

Sincerely yours,

Dr. Jae-Wook Bang
Professor, School of BioSciences & Biotechnology, Chungnam National University, Daejeon 305-764, Korea
E-mail : bangjw@cnu.ac.kr
Tel : +82-42-821-5497
Fax : +82-42-822-9690

国立遺伝学研究所　大学院生募集

――発生，行動，進化，すべては遺伝子からはじまる――

遺伝学は生命現象を遺伝子との関連のもとに解明する学問です．国立遺伝学研究所は，数多くの実験生物系統や整備されたDNAデータベースを有し，豊かな研究環境のもとで独創的な遺伝学研究を展開しています．当研究所では，総合研究大学院大学・遺伝学専攻を併設し，大学院生を受け入れています．今年度からは従来の博士後期課程に加え，学部卒で入学できる5年一貫制も導入されました．独立した研究者の育成を目的に，複数の教官による研究助言制度，プレゼンテーション法指導，頻繁なセミナーなど，当研究所ならではの工夫で，密度の濃い少人数制教育を実施しています．あなたも遺伝学研究所で研究してみませんか？

大学院説明会のおしらせ

日　　時：平成16年6月12日（土）13：30～16：30
場　　所：国立遺伝学研究所（JR三島駅南口からバスまたはタクシーで約15分）
内　　容：展示パネルを用いた各研究室の紹介　各教官との懇談　懇親会
申し込み：定員や〆切はございませんが，準備の都合上，事前にご連絡いただければ助かります．住所・氏名・現在の所属・連絡先をご記入の上，FAX，電子メールまたはお葉書で，以下の住所までお送り下さい．
ホームページ：http://www.nig.ac.jp
〒411-8540　三島市谷田1111　国立遺伝学研究所庶務課共同研究係（大学院担当）
電話：055-981-6713　　FAX：055-981-6715　　電子メール：info-soken@lab.nig.ac.jp

感じる力　考える力　討論する力を育てる　総合研究大学院大学遺伝学専攻

＊　＊

第16回国際解剖学会議　会告

◆英文名称：　16th International Congress of the IFAA
Anatomical Science 2004 —From Gene to Body—
◆会　　期：　2004年8月22日（日）～27日（金）
◆会　　場：　国立京都国際会館
〒606-0001　京都市左京区宝ヶ池　Tel: 075-705-1234　（http://www.kich.or.jp/）
◆学術プログラム（予定）
・一般講演（口演・ポスター）
・**Opening Lecture**

Kai Simons（Germany）	Lipid rafts in membrane sorting and trafficking

・**Plenary Lectures**

Mario R. Capecchi（U. S. A.）	From genes to mammalian body plan
Mark H. Ellisman（U. S. A.）	Multiscale imaging of the nervous system
Tomas G. M. Heokfelt（Sweden）	Neurobiology thanks to chemical neuroanatomy
Masao Ito（Japan）	Learning and memory in the cerebellum
Masatoshi Takeichi（Japan）	Regulation of dynamic cell assembly by catenin-cytoskeletal interactions
Samuel Weiss（Canada）	Adult forebrain neural stem cells: From basic biology to brain repair

・**Presidential Lecture**

Nobutaka Hirokawa（Japan）	Frontier research in structural life science; Molecular motors, KIFs and mechanism of intracellular transport
David B. Thomas（U. K.）	Stem cell replacement therapy; the dream becomes reality

・**Special Lectures**

James R. Bamburg（U. S. A.）	Supply and demand: Regulating actin synthesis and delivery during cell polarization
Sa Sun Cho（Korea）	Expression and putative role of transferrin binding protein: In the avian central nervous system
Yoshinori Fujiyoshi(Japan)	Structure and function of channels observed through an electron beam
Sumio Iijima（Japan）	Carbon nanotubes and their application to biotechnology
Gong Ju（China）	A hypothesis of neural-humoral dual regulation of the mammalian anterior pituitary
Hisatake Kondo（Japan）	Visualization of mRNA translation sites by in-situ hybridization, and its newly developed questions and prospects
Arthur D. Loewy（U. S. A.）	Central autonomic circuits: New insights
Shigekazu Nagata（Japan）	Apoptosis and phagocytosis
Shigetada Nakanishi（Japan）	Regulatory mechanisms of synaptic transmission in the neural circuit
Yoshinori Ohsumi（Japan）	Progress in molecular mechanism of autophagy
Ronald W. Oppenheim（U. S. A.）	Regulation of motoneuron development and survival during embryogenesis
Clifford B. Saper（U. S. A.）	The hypothalamo integrator for oiroadian rhythms
Yosaburo Shibata（Japan）	Molecular anatomy of gap junction diversity
Kohei Shiota（Japan）	3D visualization of staged human embryos and its application to biomedical research and education
Peter Somogyi（U. K.）	From Cajal's diversity of neuronal form to action potential timing in the cerebral cortex
Shoichiro Tsukita（Japan）	The claudin family: A key player in the barrier function of epithelium/endothelium in multicellular organisms
Toshio Yanagida（Japan）	Single molecule nano-bioscience

・**Symposia and Workshops** **64**

・**Evening Sessions** **7**

◆演 題 募 集

演題申込は，UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）のご協力を得てインターネットによるオンライン申込を行います．なお，諸事情によりオンライン登録が不都合･不可能な方は，下記演題登録事務局まで E-mail もしくはファックスにてご連絡くださいますようお願いいたします．

（1）募集演題　一般演題（口演およびポスター発表）

（2）申込期間　オンライン：2003年12月20日（木）～2004年 3 月 2 日（火）午前11時
締切延長の可能性があります．

（3）申込 URL　http://www.ifaa2004.org/

◆参 加 登 録

事前登録締切：2004年 6 月22日（火）

参加申込は，インターネットによるオンライン申込をホームページ（http://www.ifaa2004.org）にて，ご案内しております．オンライン申込が，不都合，不可能な場合には，ホームページより Registration Form をダウンロードしていただき，ファックス又は郵送にて登録事務局までお送り下さい．

	事前登録（ 6 ／22まで）	当日登録（ 6 ／22以降）
一般参加者	￥35,000	￥40,000
学　　生	￥20,000	￥25,000
同 伴 者	￥10,000	￥12,000

◆登録事務局

（株）ジェイコム コンベンション事業本部内

〒530-0001　大阪市北区梅田2-4-9　サンケイビル本館 7 階

Tel: 06-6348-1391　　Fax: 06-6456-4105　　E-Mail: ifaa2004@jtbcom.co.jp

学会ホームページ：http://www.ifaa2004.org

第29回国際動物遺伝学会議（ISAG）開催のお知らせ

第29回 ISAG が下記のとおり2004年 9 月，日本で開催されます，詳細はホームページ（http://www2.kobe-u.ac.jp/~isag2004/）に掲載しております．

メインテーマー：　ゲノム研究の発展と家畜生産

家畜，実験動物，魚類，野生動物，等のゲノム研究，QTL 解析，遺伝的多様性，等に関する最先端の研究成果を，プレナリーセッシオン，ワークショップ，ポスター発表などで紹介します．プレナリーセッシオンは次ぎの 4 分野を予定しています．（日本遺伝学会後援）

1. Genetic Diversity of Livestock and its Utilization for Breeding:　D.Bradley（Ireland），L. Ollivier（France），K. Tanaka and Y. Kurosawa（Japan）
2. Ultimate Chromosome Maps:　L. B. Schook（USA），D. V. Burt（UK），Y. Hayashizaki（Japan）
3. Bright and Dark Sides of QTL Analysis:　M. Georges（Bergium），H. Inoko（Japan）
4. Seeds for Future Genome Analysis:　M. H. de Angelis（Germany）

開催場所：　明治大学駿河台新校舎（東京，御茶ノ水）
開催期日：　2004年 9 月11日（土）～16日（木）
登　　録：　講演要旨及び早期登録の締め切りは2004年 5 月31日
登録料金：　会員（ 4 万円），非会員（ 5 万円），学生会員（ 2 万円），一日参加（ 2 万円）
連 絡 先：　サード・アナウンスメントの請求あるいは会議に関するご質問は事務局まで
〒657-8501　神戸市灘区六甲台町1-1，神戸大学農学部　辻　荘一
電話：078-803-5801，Fax：078-803-5801，e-mail tsuji@ans.kobe-u.ac.jp

29th International Conference on Animal Genetics (ISAG)

Main theme:　Development of Genome Research and Animal Production

Conference consist of Plenary Sessions, Workshops and Poster Presentations for the recent research results of genome research, QTL analysis, genetic diversity and etc in the field of Animal Science, Experimental Animals, Fishery Science and wild animals.

Plenary Sessions are follows:

1. Genetic Diversity of Livestock and its Utilization for Breeding: D. Bradley（Ireland），L. Ollivier（France），K. Tanaka and Y. Kurosawa（Japan）
2. Ultimate Chromosome Maps: L. B. Schook（USA），D. V. Burt（UK），Y. Hayashizaki（Japan）
3. Bright and Dark Sides of QTL Analysis: M. Georges（Bergium），H. Inoko（Japan）
4. Seeds for Future Genome Analysis: M. H. de Angelis（Germany）

Venue:　Surugadai Campas, Meiji University, Tokyo, Japan

Date:　11–16 September 2004

Registration:　Abstract submission and the early registration rate are available until May 31, 2004.

Registration fees:　40,000 yen（member），50,000 yen（non-member），20,000 yen（student or one dayregistration）

Conference office address:　Request for 3rd Announcement and a question are available at following address;
Soichi Tsuji, Faculty of Agriculture, Kobe University 1-1 Rokkoudai Nadaku, Kobe 657-8501, Japan.
Tel: 078-803-5801，Fax: 078-803-5801，e-mail tsuji@ans.kobe-u.ac.jp

Website:　http://www2.kobe-u.ac.jp/~isag2004/

第21回（平成16年度）
持田記念学術賞　候補者の推薦要領
(Academic Award of the Mochida Memorial Foundation)

1．持田記念学術賞の対象

当財団は，生命科学を中心とする医学，薬学及びこれらに関連する物理学，化学，工学等の先見的，独創的研究を育成し，かつ，これらの成果を総合して医療に応用し，わが国の医療及び国民の保健向上に資することを目的としております．持田記念学術賞はその一環として創設された冠となる賞であり，新進気鋭の研究者で次の3項目の研究分野で，顕著な功績があった方に贈呈しております．

生命科学と医療応用の研究
薬物科学と医療応用の研究
情報科学と医療応用の研究

2．褒 賞 金

1件300万円で2件以内

3．推薦方法

推薦人

1)　当財団より推薦依頼を受けた学会
2)　当財団の理事又は評議員

※1推薦人は1候補者に限ります．

候補者

別添推薦書に必要事項を記入し，推薦人の署名・捺印を受けてから当財団あてに送付してください．

4．締切期日

平成16年7月31日（土）　（当日の消印有効）

5．選考の方法

選考作業は選考委員会が行い，平成16年9月に受賞候補者を内定，当財団理事会に諮り決定いたします．

6．褒賞金の贈呈式

平成16年10月下旬．

財団法人持田記念医学薬学振興財団
第22回（平成16年度）研究助成金交付
対象者募集要項

1．助成の趣旨

生命科学と医療応用の研究
薬物科学と医療応用の研究
情報科学と医療応用の研究

上記の研究を助成し，もってわが国の医療及び国民の保健の向上に資することを目的とする．

2．助成対象

下記の研究対象の領域に属する研究を国内において行う研究者で満45歳未満の方（誕生日が昭和34年4月1日以降の方）

生命科学と医療応用の研究
1)　バイオテクノロジーにより産生されるヒトに対して生理活性を有する物質に関する研究
2)　免疫制御機構に関する研究（老化，免疫低下等を含む）

薬物科学と医療応用の研究
1)　創薬の研究（医薬品の開発・評価等を含む）
2)　薬物動態の研究（薬力学的研究を含む）

情報科学と医療応用の研究
1)　心臓・血管疾患の本態解明に関する研究
2)　心臓・血管疾患の治療制御に関する研究

3．研究助成金額

総額　4,500万円　　1件につき100万円とする．

4．研究助成金交付の対象となる経費

研究に要する物品の購入費用，その他研究推進に必要な費用とする．

5．応募方法

所定用紙に必要事項を記入し，住所・氏名を記入した採否通知返信用封筒（長3サイズ：切手不要）を添えて『書留郵便』で当財団あてに送付する．

採択された交付対象者の申請書は，研究内容をそのまま「持田記念財団年報」に写真製版で掲載するため，申請書の複写使用は不可とする．

所属機関の長（学長，学部長，所長）あるいは所属部門の長（教授，部長）の推薦を必要とする．なお，1推薦者は，1件に限る．

6．締め切り

平成16年6月30日(水)　当日の消印まで有効．

7．選考の方法

選考作業は選考委員会が行う．

平成16年9月に採択候補者を選考，当財団理事会に諮り決定する．

8．採否の通知

平成16年10月上旬までに応募者と推薦者あて文書で通知する．

9．研究助成金の交付

贈呈式を平成16年10月下旬に行い，11月上旬～12月中旬に研究助成金を交付する．

10．ご注意

採択された研究（研修）は，その抜粋を「持田記念財団年報」に収載するため公知の事実となる．従って，研究（研修）内容を特許登録したい場合は，公知により特許が成立しない可能性があるので，特許出願してから応募するようにお勧めする．

11．制限事項

平成13年度以降に当財団の研究助成金受領者は，本年度の応募受付対象としない．

12．所定用紙（申請書）請求手続きについて

申請書の区分，送付先住所，氏名，郵便番号，電話番号を記入のうえ，葉書，Fax又はE–mailでお申し込みください．

13. 申請書提出先及び問い合わせ先
財団法人　持田記念医学薬学振興財団事務局
〒160-8515　東京都新宿区四谷１丁目７番地
Tel.（03）3358-7211（代表）
Fax.（03）3357-1264
E-mail: zaidan@mochida.co.jp

（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団〔第16回加藤記念国際交流助成募集要項〕

1．助成対象者：平成16年４月１日から平成17年３月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会，シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者．
2．申込資格：応募締切日に35才以下の方（医学系の大学卒業者は37才以下の方）．
3．助成内容：所要経費の一部を援助する．
4．助成金額：総額750万円．
5．援助件数：30件程度（前期；20件程度，後期；10件程度）．
6．応募方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上，当財団に直接申し込む．
7．応募締切：
前期；４／１～９／30の期間に発表される方は，平成16年５月31日．
後期；10／１～翌年３／31の期間に発表される方は，平成16年８月31日．
8．審査方法：当財団の選考委員による審査の上，評議員会議長および理事長の承認を得て決定．
9．申請書の請求先：下記あて「はがき」，「ファクシミリ」または「メール」にてご請求ください．
10. 助成を受けられた方はA4 １～２枚程度の報告書を提出して下さい．当財団の「財団年報」に掲載する予定です．
11. 助成が決定した場合，氏名，所属機関，研究テーマ，参加学会名等を財団年報，ホームページ等により公開いたします．ご了承下さい．
連絡先：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
住　所：〒194-8533　東京都町田市旭町3-6-6
電　話：042-725-2576　　FAX：042-722-8614
E-mail：kato.zaidan@kyowa.co.jp
担　当：持田顕一

平成16年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者募集

（財）バイオインダストリー協会

平成16年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者を下記要領にて募集致します．多数のご応募をお願い致します．

なお，本研究奨励金は，化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者に対して，平成８年度より，研究奨励金の交付を行っているものであります．

募集要項

対象分野および対象者：化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者
対象者の資格：交付の時点で，協会の会員（個人会員，または賛助会員会社・維持会員会社の役員・従業員）であり，年齢50歳未満であること．
採 用 件 数：毎年７件以内
奨　励　金：１件につき50万円
申 込 み 方 法：規定用紙により，応募される研究の題目およびその概要，研究者の略歴，研究論文リスト等を提出していただきますので，ご所属・ご氏名・送付先を明記の上，下記にご連絡下さい．規定用紙をお送りしますので，以下の提出期限までにご提出下さい．
なお，規定用紙は（財）バイオインダストリー協会ホームページからもダウンロードできます．
書類提出締切：平成16年７月９日（金）必着
郵送でご提出下さい．（電子メールによる提出は受付けません．）
選 考 方 法：交付対象者は，本分野の学識経験者で構成する選考委員会において審議し，決定します．選考委員会の審議内容は公開致しません．
問合せ・申込み先：（財）バイオインダストリー協会
（担当：井口博史，矢田美恵子）
〒104-0032　東京都中央区八丁堀2-26-9
グランデビルディング8F
TEL: 03-5541-2731　　FAX: 03-5541-2737
E-mail: yata@jba.or.jp
URL　http://www.jba.or.jp

日本学術会議レポート

日本学術会議連合部会が2004年 2 月16日に開催されましたが，日本学術会議法の一部を改正する法律案が閣議をへて今国会に提出される事が黒川会長から報告されました．法律案の内容を以下に紹介します．なお学術会議などのホームページでも見る事が出来ます．（石和）

第一五九回　閣第二九号　日本学術会議法の一部を改正する法律案

日本学術会議法（昭和二十三年法律第百二十一号）の一部を次のように改正する．

第一条第二項中「総務大臣」を「内閣総理大臣」に改める．

第六条の二第二項中「あらたに」を「新たに」に，「総務大臣」を「内閣総理大臣」に改める．

第七条第二項中「第二十二条」を「第十七条」に改め，「これを」を削り，同条第三項から第五項までを次のように改める．

3　会員の任期は，六年とし，三年ごとに，その半数を任命する．

4　補欠の会員の任期は，前任者の残任期間とする．

5　会員は，再任されることができない．ただし，補欠の会員は，一回に限り再任されることができる．

第七条中第七項を第八項とし，第六項を第七項とし，第五項の次に次の一項を加える．

6　会員は，年齢七十年に達した時に退職する．

第八条第一項中「二人」を「三人」に改め，同条第三項から第五項までを次のように改める．

3　副会長は，会員のうちから，総会の同意を得て，会長が指名する．

4　会長の任期は，三年とする．ただし，再選されることができる．

5　副会長の任期は，三年とする．ただし，再任されることができる．

第八条に次の一項を加える．

6　補欠の会長又は副会長の任期は，前任者の残任期間とする．

第十条を次のように改める．

第十条　日本学術会議に，次の三部を置く．

第一部

第二部

第三部

第十一条第二項を削り，同条第一項中「分属するものとし，各部の定員は，政令でこれを定める」を「属するものとする」に改め，同項を同条第四項とし，同項の前に次の三項を加える．

第一部は，人文科学を中心とする科学の分野において優れた研究又は業績がある会員をもつて組織し，前章の規定による日本学術会議の職務及び権限のうち当該分野に関する事項をつかさどる．

2　第二部は，生命科学を中心とする科学の分野において優れた研究又は業績がある会員をもつて組織し，前章の規定による日本学術会議の職務及び権限のうち当該分野に関する事項をつかさどる．

3　第三部は，理学及び工学を中心とする科学の分野において優れた研究又は業績がある会員をもつて組織し，前章の規定による日本学術会議の職務及び権限のうち当該分野に関する事項をつかさどる．

第十二条を次のように改める．

第十二条　各部に，部長一人，副部長一人及び幹事二人を置く．

2　部長は，その部に属する会員の互選によつて定める．

3　副部長及び幹事は，その部に属する会員のうちから，部会の同意を得て，部長が指名する．

4　第八条第四項及び第六項の規定は部長について，同条第五項及び第六項の規定は副部長及び幹事について，それぞれ準用する．

第十四条第一項中「運営審議会」を「幹事会」に改め，同条第二項中「運営審議会」を「幹事会」に，「及び副部長並びに規則で定める会員」を「，副部長及び幹事」に改め，「，これを」を削り，同条に次の一項を加える．

3　日本学術会議は，第二十八条の規定による規則（以下この章及び次章において「規則」という．）で定めるところにより，前章の規定による日本学術会議の職務及び権限の一部を幹事会に委任することができる．

第十五条を次のように改める．

第十五条　日本学術会議に，会員と連携し，規則で定めるところにより第三条に規定する職務の一部を行わせるため，日本学術会議連携会員（以下「連携会員」という．）を置く．

2　連携会員は，優れた研究又は業績がある科学者のうちから会長が任命する．

3　連携会員は，非常勤とする．

4　前三項に定めるもののほか，連携会員に関し必要な事項は，政令で定める．

第十五条の二中「前条の研究連絡委員会のほか，」を「会員又は連携会員をもつて組織される」に改める．

第十五条の三を削る．

第十六条第三項中「総務大臣」を「内閣総理大臣」に改め，「これを」を削る．

第十七条を次のように改める．

第十七条　日本学術会議は，規則で定めるところにより，優れた研究又は業績がある科学者のうちから会員の候補者を選考し，内閣府令で定めるところにより，内閣総理大臣に推薦するものとする．

第十八条から第二十二条までを次のように改める．

第十八条から第二十二条まで　削除

第二十二条の二及び第二十二条の三を削る．

第二十六条中「総会における出席会員の三分の二以上の議決による」を削る．

附　則

（施行期日）

第一条　この法律は，平成十七年十月一日から施行する．ただし，次の各号に掲げる規定は，当該各号に定める日から施行する．

一　第十八条から第二十二条までの改正規定，第二十二条の二及び第二十二条の三を削る改正規定並びに附則第二条から第四条まで，第五条第一項（内閣総理大臣に推薦することに係る部分を除く．）及び第二項並びに第八条の規定　公布の日

二　第一条第二項，第六条の二第二項及び第十六条第三項の改正規定並びに附則第五条第一項（内閣総理大臣に推薦することに係る部分に限る．），第七条及び第九条から第十一条までの規定　平成十七年四月一日

（経過措置）

第二条　前条第一号に掲げる規定の施行の日（以下「一部施行日」という．）からこの法律の施行の日（以下「施行日」という．）までの間における日本学術会議法第七条第二項及び第十五条第二項の規定の適用については，これらの規定中「第二十二条」とあるのは，「日本学術会議法の一部を改正する法律（平成十六年法律第▼▼▼号）による改正前の第二十二条」とする．

第三条　施行日の前日において日本学術会議会員（以下「会員」という．）又は研究連絡委員会の委員である者の任期は，改正前の日本学術会議法（以下「旧法」という．）第七条第三項（旧法第十五条第三項において準用する場合を含む．）の規定にかかわらず，その日に満了する．

第四条　一部施行日から施行日の前日までの間，日本学術会議に，施行日以後最初に任命される会員（以下「新会員」という．）の候補者の選考及び推薦を行わせるため，日本学術会議会員候補者選考委員会（以下「委員会」という．）を置く．

2　委員会は，政令で定める数を超えない範囲内の数の委員をもって組織する．

3　委員は，学識経験のある者のうちから，次に掲げる者と協議の上，日本学術会議の会長が任命する．

一　内閣府設置法（平成十一年法律第八十九号）第二十九条第一項第六号に掲げる総合科学技術会議の議員のうちから総合科学技術会議の議長が指名するもの

二　日本学士院の院長

4　委員会に，専門の事項を調査させるため，専門委員を置くことができる．

5　専門委員は，学識経験のある者のうちから日本学術会議の会長が任命する．

6　委員及び専門委員は，非常勤とする．

7　前各項に定めるもののほか，委員会に関し必要な事項は，政令で定める．

第五条　委員会は，その定めるところにより，優れた研究又は業績がある科学者のうちから新会員の候補者を選考し，内閣府令で定めるところにより，内閣総理大臣に推薦するものとする．

2　委員会は，前項の規定により新会員の候補者の選考を行う場合には，次条第二項の規定によりその任期が三年である新会員の候補者と改正後の日本学術会議法（以下「新法」という．）第七条第三項の規定によりその任期が六年である新会員の候補者との別ごとに行うものとする．

第六条　新会員は，新法第七条第二項の規定にかかわらず，前条第一項の規定による推薦に基づいて，内閣総理大臣が任命する．

2　新会員の半数の者の任期は，新法第七条第三項の規定にかかわらず，三年とする．

3　新法第七条第五項の規定は，新会員（前項の規定によりその任期が三年であるものを除く．）から適用する．

第七条　附則第一条第二号に掲げる規定の施行の際，総務省本省に国家行政組織法（昭和二十三年法律第百二十号）第八条の三の特別の機関として置かれている日本学術会議及びその会長，会長その他の職員は，内閣府本府に内閣府設置法第四十条の特別の機関として置かれる日本学術会議及びその相当の職員となり，同一性をもって存続するものとする．

第八条　附則第二条から前条までに定めるもののほか，この法律の施行に関し必要な経過措置は，政令で定める．

（国立国会図書館法の規定により行政各部門に置かれる支部図書館及びその職員に関する法律の一部改正）

第九条　国立国会図書館法の規定により行政各部門に置かれる支部図書館及びその職員に関する法律（昭和二十四年法律第百一号）の一部を次のように改正する．

第一条の表国立国会図書館支部日本学術会議図書館の項を削り，同表国立国会図書館支部内閣府図書館の項の次に次のように加える．

国立国会図書館支部日本学術会議図書館

内閣府

（内閣府設置法の一部改正）

第十条　内閣府設置法の一部を次のように改正する．

第四条第三項第五十二号の次に次の一号を加える．

五十二の二　科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡に関すること．

第四十条第三項の表に次のように加える．
日本学術会議

日本学術会議法（昭和二十三年法律第百二十一号）
（総務省設置法の一部改正）
第十一条　総務省設置法（平成十一年法律第九十一号）の一部を次のように改正する．
目次中「第二十条の二」を「第二十一条」に，「第二十一条―」を「第二十二条・」に改める．
第四条第九十三号を次のように改める．
九十三　削除
第二十一条を削り，第三章第二節第六款中第二十条の二を第二十一条とする．
第二十二条を同条第二項とし，同項の前に次の一項を加える．
本省に，中央選挙管理会を置く．
第二十三条を次のように改める．
第二十三条　削除

理　由
中央省庁等改革基本法第十七条第九号の規定に基づき行われた総合科学技術会議における日本学術会議の在り方についての検討の結果等を踏まえ，日本学術会議の所轄，組織，会員の推薦方法等を改める必要がある．これが，この法律案を提出する理由である．

〜〜

星元紀動物科学研連委員長は，同研連委員に以下のような学術会議の改正案についてコメントを送っておられますので，お許しを得てここに紹介します．

1．既に新聞報道等でご存知と思いますが，２月４日に学術会議法の改正案に関する閣議決定がなされました．それによりますと，会員候補者の選考方法を現在の登録学会の推薦制から，同会議が自ら選考する方法に変更．研究分野別に７部ある組織を「人文科学」「生命科学」「理学及び工学」の３部体制とする．国際交流・協力に対応するため副会長を１人増員する．会員とは別に連携会員を置く．会員の70歳定年制を導入，任期を３年から６年に延長する代わりに再任を禁止．３年毎に半数会員改選．所管を総務省から内閣府に移し，科学技術政策を形成する政府の総合科学技術会議と車の両輪と位置づけるなどの変更があります．また，改正案を今国会に上程し，17年４月１日に内閣府へ移管し，同年10月１日より施行という予定となっております．
この法案が採択されますと，19期会員および研連委員の任期は17年９月30日までとなります．
2．２月16－17日に，連合部会，部会等が開かれましたが，上のような改正案に対処するため，次期科学技術基本計画への提言については，基本計画において検討すべき事項について本年秋までに，その内容については明年夏までに提言する予定となりました．また，研連などにおける報告などの取りまとめも，これに準じて急ぐ必要がありますので，宜しくご協力のほどお願いいたします．

参考　科学技術基本計画概要は，文科省などのホームページから読む事が出来ます．以下はその一部を抜粋したものです．

2．我が国が目指すべき国の姿と科学技術政策の理念
我が国が直面している諸課題を克服し今後の展望を拓いていくために，科学術は重要な鍵を握っている．我が国は，科学技術創造立国の実現を基本とし，総合戦略及びこれに基づき策定される科学技術基本計画，これらに基づく具体的な施策を積極的に展開することにより，科学技術を振興し，直面する課題を適切に克服していく必要がある．先に述べた20世紀の総括と21世紀の展望を踏まえ，我が国の科学技術政策の基本的な方向として目指すべき国の姿を，次に述べるように，「知の創造と活用により世界に貢献できる国」，「国際競争力があり持続的発展ができる国」，「安心・安全で質の高い生活のできる国」の３つとする．
知の創造と活用により世界に貢献できる国の実現に向けて
―新しい知の創造―「知の創造と活用により世界に貢献できる国」とは，科学を通じて，未知の現象の解明，新しい法則や原理の発見等，新しい知識を生み出し，その知識を活用して諸課題に対応する国である．さらに，そうした知識や知恵を世界に向けて発信し，人類共通の問題解決に資することによって，世界から信頼される国である．
こうした国を実現していくためには，我が国に科学を根付かせ，育て上げる取組みが必要である．そのため，科学的なものの見方･考え方，科学する心を大切にする社会的な風土を育むとともに，知の源泉である人材を育成し，知を国の基盤とする社会を構築していくことが必要である．
具体的には，例えば，投資に見合う多数の質の高い論文が発表され，国際的に評価の高い論文の比率が増えること，ノーベル賞に代表される国際的科学賞の受賞者を欧州主要国並に輩出すること（50年間にノーベル賞受賞者30人程度），優れた外国人研究者が数多く集まる研究拠点が相当数できることなど，世界水準の質の高い研究成果を創出し，世界に広く発信することを目指す．

国際競争力があり持続的発展ができる国の実現に向けて

―知による活力の創出―「国際競争力があり持続的発展ができる国」とは，現下の経済社会が有する諸課題を克服し，付加価値の高い財・サービスを創出し，雇用機会を十分に確保することで，国際的な競争環境の中で我が国の経済が活力を維持し，持続的に発展を遂げ，国民の生活水準を向上させられる国である．

産業技術力は，我が国産業の国際競争力の源泉であり，国民生活を支えるあらゆる産業活動を活性化していく原動力でもある．また，産業技術は科学技術の成果を社会において活用する観点からも重要である．我が国経済の活力を維持し持続的な発展を可能とするため，技術の創造から市場展開までの各プロセスで絶え間なく技術革新が起きる環境を創成し，産業技術力の強化を図ることで，国際的な競争優位性を有する産業が育成されることが必要である．特に，研究開発に基盤を置いた新産業の創出が必要であり，このため，科学技術と産業とのインターフェースの改革が急務である．

具体的には，例えば，TLO等の技術移転機関が質的量的に充実し，公的研究機関からの特許の移転が進み，公的研究機関発の数多くのベンチャー企業が起こるなど，公的研究機関の研究成果が数多く産業へ移転される，国際標準が数多く提案される，国際的な特許の登録件数が増加する，産業の生産性が向上するなど強い国際競争力を持つことを目指す．

安心・安全で質の高い生活のできる国の実現に向けて

―知による豊かな社会の創生―「安心・安全で質の高い生活のできる国」とは，本格的に到来する高齢社会において国民が健康に生活できるよう疾病の治療・予防能力を飛躍的に向上させること，自然及び人為的な災害やそれによる被害を最小限にとどめること，人間活動の基盤をなす食料やエネルギーの安定供給を図ること，地球環境と調和した産業活動や経済的発展を実現すること，さらに，世界の中で安定した国際関係を維持するとともに，人々が安心して心豊かに，質の高い生活を営むことのできる国である．

こうした課題を根本的に解決するためには，科学技術の発展とその社会への適切な活用が重要である．すなわち，疾病や災害の発生や影響拡大の仕組みなどを解明し対策を立てていくことが必要であり，科学技術はこのための手段を提供する．同時に，科学技術には負の側面もあり，それへの対応も適切に行うことを忘れてはならない．また，科学技術の先進国として我が国が，発展途上国など国際社会が直面する多くの難問を解決するとともに，国際的地位と国の安全を維持するため，科学技術を活用する努力を行うことも当然である．

具体的には，例えば，様々な疾患遺伝子の解明とそれに基づくオーダーメイド医療を可能とする科学的・技術的基盤が形成されること，地震，台風等の自然災害の被害が最小限に抑えられること，バイオテクノロジー等の活用により良質な食料の安定的な供給が確保されること，科学技術の持つリスクが軽減されることなどを可能とすることを目指す．これらによって，発展途上国における感染症，災害対策にも貢献することが期待される．

以上の3つの国の姿の実現に当たっては，次の点に留意することが必要と考える．

○　我が国が20世紀に営々として築き上げた世界第一級の科学技術の蓄積を基盤に，これを21世紀に持続し，力強く発展させていくことが必須である．これによって，我が国の直面する課題を解決するとともに，人類社会全体の発展に我が国が科学技術を基礎とした解決策を示し積極的に貢献していくことを，同時に達成する展望をもつことができる．

○　我が国は，西洋諸国以外では最も早くから近代化の道を歩み始めた国であり，科学技術文明と固有の文化との共存のあり方について苦悩してきた長い経験を有する．この経験を 踏まえて，世界の人々が，それぞれの文化，価値観を維持しつつ，科学技術の恩恵を広く享受することのできる環境づくりに貢献することが重要である．

日本学術会議レポート

「基礎科学振興に関する第4部WG」

学術会議第4部会では，基礎科学振興を図るためにワーキング・グループを立ちあげ，取り組むべき課題を整理して作業を進めている．今夏には，その内容が具体的に紹介出来る予定である。（石和）

1．重要である理由――これを理論化

A．長い目で見ると結局役に立つ

B．価値としての知る喜び――教育の重要要素

C．文化の一面，ナショナリズム

2．疎かにされている現状と改善のためのアクション提案

A．科学技術予算の構造(経常的校費の目減り，ビッグサイエンスとスモールサイエンスのバランス等)，科学技術行政一般

B．大学，研究所における法人化の影響

C．国民の意識，ジャーナリズムのあり方

3．第4部における検討･対外アクション

A．拡大役員会を構成

B．部会に講師をお呼びし話を伺う

C．シンポジウム

D．報告書（シリーズで？）

E．大学，研連等の活動と連携

遺伝学研究連絡委員会遺伝子操作専門委員会（第 1 回）が平成16年 3 月18日に開催

議題として，第19期の活動方針について，北海道での組み換え植物規制条例制定についての動きとその問題点および対策について，組み換え DNA 実験規制に関する諸問題：分野毎の問題点についてなどが予定されております．専門委員の構成は，遺伝学研連から品川日出夫委員のほか，前期から継続の鎌田博，米田好文，河岡義裕，林哲也各委員，新任の八神 健 一（筑波大），広海 健（国立遺伝研），斎藤　泉（東大）各委員が入っておられます．なお，北海道庁のホームページから標記規制条例に関する資料を参考として以下に引用します．

〈資料〉

北海道における遺伝子組換え作物の栽培に関するガイドライン

平成16年 3 月 5 日
北　海　道

1　背　景

近年，道内では，一般の農家での遺伝子組換え大豆の栽培や国の試験研究機関における開放系での遺伝子組換えイネの栽培試験が相次いだことなどにより，遺伝子組換え作物に不安を持つ消費者団体や生産者を中心に栽培中止などを求める声が高まっており，昨年12月には第４回北海道議会定例会において，遺伝子組換え作物の非承認などを求める意見書が採択されたところである．

一方，農林水産省は，本年２月の遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年法律第97号．以下「カルタヘナ法」という）の施行を踏まえ，所管する独立行政法人の栽培実験を対象に周辺の一般作物との交雑などを防止するための指針（第１種使用規程承認組換え作物栽培実験指針）を策定したところである．

こうした状況の中で，道は，当面，道立農業試験場における実用品種の育成を目的とした遺伝子組換えの研究を見合わせるとともに「食」に関する，条例（仮称）案の中で遺伝子組換え作物の栽培を規制する方向で検討を進めている．

2　ガイドラインの策定に当たっての基本認識

遺伝子組換えなどバイオテクノロジーの研究開発は，将来的な本道の産業振興に有用であり，積極的な取組を進めることが必要と考えている．

しかし，道民はもとより全国の消費者が，遺伝子組換え食品に強い不安感を抱いており，また，遺伝子組換え作物の花粉の飛散による一般作物との交雑などが懸念される．

こうした状況の中で，道内において，開放系で遺伝子組換え作物の栽培が行われることは，道産食品に対する風評被害や本道農業の著しいイメージダウンにつながる恐れがある．

このため，道としては，道内における開放系での遺伝子組換え作物の栽培について，消費者や生産者などの理解を得ながら慎重に対応することが必要と考えている．

3　目　的

このガイドラインは，遺伝子組換え作物の花粉の飛散による一般作物との交雑などを防止するとともに，道産食品に対する消費者の安全・安心・信頼を確保し，北海道ブランドの一層の向上を図るため，道内における遺伝子組換え作物の開放系での栽培に関する道としての対応方針などを示すものである．

4　ガイドラインの位置付け

遺伝子組換え作物の栽培の規制については，平成16年度中の提案を予定している「食」に関する条例（仮称）案の立案の中で別途検討を進めているが，このガイドラインは，２に掲げる基本認識を踏まえ，早急に対応することが必要であることから，当面の間の対応方針として示すものである．

ガイドラインの目的を達成するためには，生産者や試験研究機関をはじめ，市町村や農業団体などの理解と協力が必要であり，それぞれの立場で，このガイドラインに沿った積極的な取組を期待するものである．

5　ガイドラインの適用範囲

このガイドラインの適用範囲は，道内における開放系での遺伝子組換え作物の栽培とする．

※「開放系での遺伝子組換え作物の栽培」とは施設設備その他の構造物の外の大気水又は土壌中に遺伝子組換え作物が拡散することを防止するために執る措置（カルタヘナ法第２条第６項に規定する措置をいう）を執らないで行う遺伝子組換え作物の栽培をいう．

6　道としての対応方針

道は，道内における開放系での遺伝子組換え作物の栽培について，市町村や消費者団体，農業団体などの関係機関及び関係団体などと連携及び協力しながら，次に掲げる対応方針に基づき対処する．

道は，開放系での遺伝子組換え作物の栽培について，２に掲げる基本認識を道内における生産者や試験研究機関等に対して周知する．

道は，毎年度，市町村や農業団体などの協力を得て，生産者や試験研究機関等を対象に翌年度における開放系での遺伝子組換え作物の栽培に係る計画を調査するとともに，その調査の結果の概要について道民に情報提供を行うものとする．

道は　の調査により，開放系での遺伝子組換え作物の栽培に係る計画を把握した場合には，当該作物の栽培を行おうとする者に対して，２に掲げる基本認識を説明した上で，その栽培を中止するよう要請を行うものとする．

の中止の要請にもかかわらず，開放系での遺伝子組換え作物の栽培を行おうとする者に対して，道は，周辺農家の一般作物との交雑などを防止するための万全な措置を講じるよう，要請を行うものとする．

道は，現に把握していない開放系での遺伝子組換え作物の栽培が行われていることが判明した場合は，市町村や農業団体などの協力を得て，速やかに栽培の実態に関する調査を実施し，栽培者に対して，当該作物の栽培の中止及び処分の要請を行うものとする．

道は，開放系での遺伝子組換え作物の栽培が行われた場合は，必要に応じて周辺農家における花粉の飛散による一般作物との交雑などを確認するための調査及び分析を行うものとする．

7 今後の取組

遺伝子組換え技術に関する情報を消費者をはじめ道民に積極的に提供し，正確な知識の普及及び啓発に努める．

試験研究機関が研究ほ場で行う遺伝子組換え作物の栽培に係る試験については，その実施条件を別途検討する．

の検討は「食」に関する条例（仮称）案の検討の中で行うこととし，同条例案の提案を予定している来年２月までに結論を得る．

第11回連絡会議メモ

日　　時：　2004年１月22日(木) 午後１時～２時30分
場　　所：　生物科学学会連合事務所内会議室（東京・本郷）
出 席 者：　石和　貞男（昨年度世話役）　河野　重行（日本遺伝学会）
山科　正平（日本解剖学会）　後藤由季子（日本細胞生物学会）
米田　好文（日本植物学会）　小幡　邦彦（日本神経科学学会）
八杉　貞雄（日本動物学会，日本発生生物学会）　深田　吉孝（日本比較生理生化学会）
菅原　美子（日本比較生理生化学会）　山本　正幸（本年度世話役，日本分子生物学会）
山下　政克（日本免疫学会）　松木　則夫（日本薬理学会）
（欠　席）　日本植物生理学会　日本進化学会　日本神経化学会　日本生化学会　日本生態学会　日本生物教育学会　日本生物物理学会　日本生理学会　日本比較内分泌学会　（敬称略，学会名五十音順）
配布資料：　0. 第11回連絡者名簿（2004.１.22）
1. 第10回連絡会議記録（案）
2. 研究体制に関する提言書
3. 少量核燃料物質の使用に関する規制についての提言書
4. 日本学術会議第141回総会資料
5. 公開シンポジウム「21世紀の生物教育はいかにあるべきか」
6. 生物科学学会連合運営に関する申し合わせ事項

議事要旨：

会議に先立ち，故丸山工作先生へ哀悼の意を表し黙祷を捧げた．次いで，昨年12月の大学入試センター主催のお別れ会に，生科連としては弔電を送ったことが事務局より報告された．

１．第10回記録の確認（配布資料１）
原案通り承認された．

２．提言書提出の経過報告
石和と事務局２名（山口，大谷）が12月16日に文部科学省を訪問し，研究振興局学術研究助成課と，科学技術・学術政策局政策課（河村課長），同基盤政策課（倉持課長）に提言書（配布資料２）を提出した．提言書に対して，研究助成課岡本課長からは文書による回答があり，基盤政策課からは意見交換会という形でご回答いただくことになった経緯が石和より説明された．なお，意見交換会は文科省から河村，倉持両課長および生化学会から村松喬，山村博平両教授をゲストに迎えて連合会議終了後引き続いて行われた．この会の記録は別途まとめて報告の予定．

３．少量核燃料物質の使用に関する規制についての提言書
山科氏（解剖学会）より以下の報告があった．
１月15日に文部科学省科学技術･学術政策局原子力安全課原子力規制室　杉山和幸室長補佐と，森本靖之氏に会い，生科連として提言書（配布資料３）を提出した．
文科省側は問題の所在を把握しており，電子顕微鏡の使用を大幅に制限しないような形での規制を今後１年間かけて検討したいという慎重な姿勢であった．

４．科研費作業説明会について
石和より，１月20日に学術会議で開かれた「学術体制常置委員会及び研究連絡委員会等役員合同会議（科研費作業説明会)」の概略が配布資料４に基づいて紹介され，若干の問題点が指摘された．

５．公開シンポジウムの提案について
小林興氏発案の「21世紀の生物教育はいかにあるべきか」（配布資料５）の取り扱いについて事務局から相談があった．生科連という組織の性格も考慮し，学会からの提案としていただくよう，米田氏に仲介をお願いすることとなった．

６．申し合わせ事項の改訂
世話役の輻輳制について，申し合わせ事項（配布資料６）の第６条に「１名の世話役代行をおき」を，たとえば「前期世話役と次期世話役とからなる２名の世話役代行をおき」とする提案が事務局よりあったが，今後引き続き検討していくこととなった．

７．来年の世話役について
植物生理学会にお願いすることとなった．

８．次回連絡会議について
第12回連絡会議は３月中旬ごろを予定．

以　上（石和）

◆平成17年度科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について◆

このことについて，本年１月23日付けで，日本学術会議遺伝学研究連絡委員会から，本学会にて対し，細目『遺伝・ゲノム動態』及び『進化生物学』について以下の通り，候補者の推薦依頼がありました．

細　目	第１段	第２段
	推薦数	推薦数
遺伝・ゲノム動態	6	2
進化生物学	2	2

本学会としては，評議員の投票により，全普通会員から候補者を推薦しそれぞれを本学会候補者として同委員会に推薦いたします．推薦に際しては所属機関及び研究分野については大きな偏りがないように，また，年齢については，原則として平成17年１月１日時点で63歳以下となっております．なお，従来の「審査委員候補者の推薦」は，今回から「審査委員として適切な研究者情報の提供」として学術会議から依頼を受けております．なお，この投票結果については，まとまり次第評議員に報告される予定ですが，他学会からのデータと集約し，候補者の重複などに配慮修正して最終的には３月末までに学術会議に報告されます．昨年度迄との相違点などは，前号掲載の資料を参照．

＜関連資料＞

遺伝学会が科研費審査委員を会員から推薦している分科「細目」は上記の通り基礎生物学「遺伝・ゲノム動態」と生物科学「進化生物学」です．平成14・15年度科学研究費補助金（基盤研究等）細目別新規課題申請受付状況をみますと，必ずしも多くの研究者がこの細目に申請していない様子がうかがえます．この事について，会員からのご意見を幹事会にお寄せください．

関係している部分を以下に示します．（文科省ホーム頁から）

【資料】　平成15年度科学研究費補助金（基盤研究等）細目別新規課題申請受付状況（抜すい）

	細　目　名	細目番号	基盤研究(S)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	合　計
（基礎生物学）	遺伝・ゲノム動態	5701	2	8	21	35	34	3	18	121
	生態・環境	5702	3	19	53	73	35	9	46	238
	植物生理・分子	5703	3	8	56	83	56	7	72	285
	形態・構造	5704	0	2	15	52	28	0	24	121
	動物生理・行動	5705	1	1	23	59	30	3	17	134
	生物多様性・分類	5706	0	13	47	98	20	3	41	222
（生物科学）	構造生物化学	5801	1	11	38	67	36	7	54	214
	機能生物化学	5802	2	4	58	104	63	5	57	293
	生物物理学	5803	4	5	43	47	50	13	37	199
	分子生物学	5804	5	4	43	53	45	9	46	205
	細胞生物学	5805	5	10	48	79	70	4	72	288
	発生生物学	5806	5	8	34	72	49	9	60	237
	進化生物学	5807	1	7	8	22	29	2	15	84
（人類学）	人類学	5901	0	8	26	28	10	0	14	86
	生理人類学	5902	20	36	18	17	47	6	6	150

平成14年度科学研究費補助金（基盤研究等）細目別新規課題申請受付状況（抜すい）

（生物学）	遺伝	351	3	8	19	23	36	7	19	115
	生態	352	2	18	58	73	41	7	54	253
	植物生理	353	2	7	52	92	77	21	81	332
	生物形態・構造	354	3	1	13	60	22	0	27	126
	動物生理・代謝	355	2	1	22	76	39	4	23	167
	系統・分類	356	0	10	47	82	26	7	35	207
（基礎生物学）	生物物理学	821	4	16	57	68	92	21	69	327
	分子生物学	822	2	12	51	48	68	20	59	260
	細胞生物学	823	3	7	50	101	74	21	69	325
	発生生物学	824	5	11	30	52	46	18	37	199

◆日本遺伝学会幹事会ノート◆

少し前の事になりますが，昨年末12月26日に幹事が遺伝研にあつまってこれまでの一年間を振り返り，今後を語り合いました（第４回幹事会）．

新年度にはいって，第１回幹事会を大阪大学にて開催の予定でもあり，ここで前回の幹事会の様子を議長メモにより概略書き残しておく事とします．なお今回の大阪での幹事会は品川幹事（＝大会準備委員長）にお世話頂く事になっており，大会準備委員会の皆様と幹事会との意見交換も予定されています．大会開催地の主体的な企画が期待されるのは勿論ですが，また学会としての継続性や全会員の大会への要望などを企画に反映して頂こうと考えるからです．

１．仙台大会をふりかえって（山本，河野）

日本遺伝学会第75回大会が成功裡に終わったと大会委員長は自画自賛．ついで大会記録を以下の通り報告．

日本遺伝学会75回大会は９月24日～26日の３日間，東北大学川内キャンパスで開催されました．この間，参加者は373名で，その内訳は一般会員241名，学生会員132名です．事前登録で参加したのは一般191名（そのうち，講演ありは132名），学生119名（そのうち講演ありは95名）でした．懇親会参加費を払って頂いたのは195名（一般会員140名，学生会員55名）でした．

次に会計の報告です．

収　入		支　出	
遺伝学会より援助	1,000,000円	遺伝学会返済	500,000円
助成金	1,500,000円	会場使用料・清掃費	419,279円
参加費	1,797,000円	保育園開設諸経費費	58,609円
懇親会費	1,051,000円	アルバイト料	450,000円
寄付	1,030,000円	印刷費	947,862円
74回大会余剰金	200,000円	旅費	702,700円
予稿集売り上げ	15,000円	通信費	334,007円
		幹事会・評議員会諸経費	149,886円
		懇親会費	2,110,802円
		その他雑費・文具など	817,141円
収入合計	6,593,000円	支出合計	6,490,286円

以上です．従って，差し引き102,714円が余剰金として手許にあります．

日本遺伝学会第75回大会委員長，山本和生

２．BP賞について（河野）

今回のBP賞についておおむね良い評判であったと受けとめている．河野幹事の選考まとめは神業との発言もあった．数人の受賞者からはお礼の手紙を頂いている．これで大学時代の良い節目が出来た云々．

しかしまだまだ改善の余地はあるようだ．賞は常にもろ刃の剣．

・現状のシステムを残しながら，BP賞を定着させていく方法を考える必要がある．
・次回のBP賞決定までのスケジュール（準備期間）を今回より早めにする（次回幹事会までに案を提出したい）
・審査担当の教官のコメントがGSJコミュニケーションズに記載され，どのように審査されたか明確になってよかった．依頼した８人の評価委員のうち７人からコメント頂き感謝で一杯．

３．大阪大会（76），三島（77），未定（78）について（河野，品川）

３．１　第76回大会委員長より大会スケジュール案が提出された．

現在迄に大会ニュースその２が出ているのでここでは多くを省略．

・９／25(土)に市民公開講座を開催する予定
・９／27(月) 18：30－20：30のワークショップをどのようにするか，大会準備委員会で企画を検討する
・特別講演のあり方について意見があれば大会委員長まで連絡する
検討事項が幾つか指摘されました．次回幹事会で詰めたい．
・学生の旅費援助について（旅費受渡しの日時を限定する，大会開催期間中すべて参加するなどの条件を付加してはどうか？）
・一般講演の時間について（現状15分を12分にしてはどうか，または発表者に選択させる）．遺伝学会大会の魅力の一つは全員口頭発表である事で，研究者への登竜門としての意義が高い．この観点から考えて頂きたいとの意見もある．一方会場数増加も問題あり．

3．2　第77回大会（三島）について

・大会準備委員長の決定及び，準備委員会のスタートを早めにして頂くよう石和から3月中に三島側に打診する．

3．3　第78回大会について

・候補地を次回幹事会までに内定する．ローテーションにこだわる必要はないだろう．

4．2004年度学会長，評議員選挙実施にあたって（田嶋）

広報などを活用，分かりやすい選挙方法などをとおして，投票率をあげる努力をしたい．8月が忙しくなる．

・選挙スケジュールを作成すること（田嶋，鈴木）

・選挙管理委員を内定（高野，高橋，近藤　3名）し，所定の手続きを通して会長が委嘱する．

5．学術会議関連事項　学会と学術会議との接点（石和）

研連廃止となるが今後は連携会員の在り方に係っている．

会員，連携会員の選出方法は此れから具体案が検討される．

科研費審査員候補推薦も1段は3倍，2段は5倍の情報提供を学術振興会が学術会議に依頼して来た．多くの審査委員適格者情報のデータバンクを作成したいようだ．キーワード，所属機間，所属学会などで検索すれば必要に応じた審査委員が抽出できるかも知れない．

部会の改組．生命科学系など3系になる．いままで4部という理学部に相当する所で基礎科学の学問の振興，普及を議論してきたが，生物は医学，農学と一緒に，物理化学数学などは工学と一緒になって理工系となる．生物物理の郷信広部会長は苦しい心境を披露する事がおおくなった．生物は理ではないのか，と私を見る．

基礎科学にもっと光を．次世代，さらに遠い未来に光をあてる努力，文明を大切にしなければならない．基礎科学振興がテーマ．これこそが学術会議の責任の一つの様に見える．4部はなくても，同志の集まりを可能にして課題別研連を組織し，科学する喜びを深め伝える運動をおこしたい．

・学術会議のありかたについて意見を遺伝学会内でも集約し，多の学会とも連絡を取りたい．

6．17年度科学研究費審査委員選考に関する説明会と研連作業依頼（田嶋）

・昨年と同様に行う．すでに遺伝学研連でルールが確認され，前号の本会記事に紹介されている．

7．生物科学学会連合は，20の基礎生物系の幅広い学会が数年前に組織され，学術会議よりは自由に意見交換ができる会議として少しずつ　歩んで来た．研連廃止にともなって新しい役割を担う事もありうる．今後の学術会議の在り方とともに考えて行きたい．（石和）

・書類を参考にして意見があれば会長まで連絡

8．GGS 関連（品川）

8．1　論文賞についてすでに論議が積み重ねられて来たので実施することにした．いずれ選考方法に関する内規を策定し国の内外に公表し魅力ある賞としたい．

・論文賞は奨励賞と同等の扱いとし，編集委員及び編集幹事で選考してはどうか

・GGS VOL. 79 NO. 1−NO. 6 を対象とする

・HP 及び GGS VOL. 79 NO. 1への掲載

・論文賞を **GGS PRIZE** と命名する

・CITATION INDEX の GGS 掲載は，サンプルを田嶋幹事が作成し検討する

8．2　オンライン化，他について

・Sparcへ今年は参加しない

・今後の GGS 出版運営について検討を継続

・GGS に広告をいれてはどうか？と会計幹事から提案．特に異論はない…

9．ホームページの改築作業について現在の状況の紹介があった．（斎藤）

遺伝学会が社会に開かれた存在となるには，インターネット上での活動拠点を持つ事は重要である．遺伝学会はいささかこの点で遅れ気味であるのは否めない．いろいろな注文がでたが，その一つ．

GSJ コミュニケーションズをメールマガジンにする．

E-遺伝アシスタントを開設する．いろいろな相談窓口をマガジンのページに作る．ただし誰が講師をかって出るか．

10．国際対応の活動支援，シンポ企画支援，若手支援について（森）

・国際遺伝学会の開催地として立候補してはどうか？　五條堀・舘野先生らと連絡をとり相談する．

11．その他事務上の打ち合わせなど，省略．

12．次回幹事会：

・4月2日　大阪大学にて（詳細は別途連絡）

ただし，後ほど4月17日に延期されることになった．

〈追記〉仙台大会懇親会から（石和）

学会長となって初めて尽くしの体験が続いているが，特に9月24日から3日間の仙台大会では多くの事柄を学んだ．懇親会では，先輩，友人，知己から様々な助言（苦言も）を頂いた．その幾つかをここに披露して，今後の学会運営の方策に役たてるべく会員の皆さんに考えて頂こうと思う．順序は余り意味有りません．（なお，この項は 78-4 の編集後記から抜粋したものです．）

1．国際遺伝学会ベルリン大会に学会として企画参加．さらに2010年の大会を日本に誘致する．そのための準備委員会を早急に発足せよ．
2．学会間で姉妹（連携）協定を結ぶ．連携学会会員であれば，姉妹学会に参加費さえ払えば大会参加資格を得る．すでにある学会長からこの協定を打診されている．
3．ウエブマスターを開設し，会員の研究上の悩み相談などを受け付け，E-リサーチアシスタント（登録制）を紹介する．
4．希望の多い分野の幾つかについて，ミニスクールを学会が主催．合宿できる場所．
5．今大会に参加した会員のメールアドレスによって限定的ではあるが，ネットワークができるので，その会員に定期的にメールマガジンを配信する．GSJ コミュニケーションズのメルマガ化となって相互情報交換に貢献．会員であることのメリットの一つにする．
6．学会が，「遺伝学の現状と展望」シリーズの出版を行う．権威の有るものを目指す．
7．各地に出張談話会を開催し，少人数ながら遺伝学の振興に活躍している現地会員と公開談話会を開催し，支援する．
8．初等中等遺伝教育のモデルテキストを教育担当者と協力作成，出版する．
9．複数の機関に所属する会員が合同で，大会を企画しある会場にて開催を行う．意外性の有る開催地が名乗り上げる方法か．
10．名誉会員に大会参加を呼び掛ける努力が足りない．
11．法人化にともなう大学教員の研究教育条件について実体調査．研究費の低減がどこまで進んでいるかのデータを得よ．

未だ数項目あったかと思いますが，いささか冗談めいたものは省略です．日本社会が劣化していく，若者の目に輝きがない，研究生活に感動が消えて寂しい，という．一方毎日のごとく新聞紙上で人材育成だ，科学技術振興だと活字が踊る．矢張り危機的状況に有ると思う．学会として，腰を据えた取り組みをしたい．

記録　鈴木真有美，石和貞男．3／17

◆2004年度は会長．評議員選挙の年◆

会長・評議員全員の2カ年の任期が終了を迎える年となりました．会則第10条2）により会長は，評議員が全普通会員の中から選出した複数（通例は3人）の候補者から普通会員による直接選挙によって選出されます．また同第10条3）により評議員は普通会員による直接選挙で選出されます．此れに関連して選挙管理委員会を設置するため，高野　敏行，高橋　文，近藤　るみ3会員が選挙管理委員に2月13日付けで会長から委嘱されました．

選挙手続きをすすめるためには，最新の会員名簿が必要になります．現在，会計幹事の指示に基づき今年度分の会費納入のお願いをあらためてご連絡しております．会則第5条によりますと，会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする，とありますのでご注意下さい．また住所やメールアドレスなど会員登録内容の変更もお知らせ頂きたく思います．

投票用紙を郵送によりお届けする事になっております．ご協力お願いします．

◆ GGS Prize の発足について◆

設定の経緯：GGS への投稿促進と GGS の質的向上のため，論文賞を設定することになりました．この提案について，編集委員の意見を求めたところ，大多数の意見は賛成でしたので，2003年9月23日の幹事会，評議員会，編集委員・編集顧問合同委員会で提案し，討議の後論文賞の設定が承認され，第75回大会の総会で報告いたしました．2003年12月26日の幹事会において，具体化のため，論文賞の名称，対象論文，選定の方法，顕彰の仕方などについて討議され，以下のように決定されました．2004年度の GGS の論文から候補の対象になります．

論文賞の名称：**GGS Prize** とする．

審査の対象と基準：前年度（NO. 1–6）GGS 掲載論文（research paper）の中から学術的に特に優れた論文　1～2編を GGS 編集委員会で選定する．編集委員会で該当する論文がないと判断される場合もある．

選定の方法：編集幹事は GGS の NO. 6 発行後，編集委員，編集顧問に候補論文2報以内を5月31日迄に編集幹事に推薦することを依頼し，推薦を受けた論文を編集委員に知らせ，編集委員は候補論文を読んで評価する．推薦者は編集委員会で推薦理由を説明し，編集委員が討議した後採否を多数決で決定する．なお，「GGS Prize の選考に関する内規（仮）」は別に定め，選定の方法についてもその詳細を記述する準備をすすめております．

顕彰の方法：日本遺伝学会は受賞者に賞状及び記念品を贈って顕彰する．

（編集幹事　品川日出夫）

本誌 GGS（2004）79(1）に以下のような英文によるメッセージが掲載されています．

The Genetics Society of Japan announces the GGS Prize for distinguished papers published in Genes & Genetic Systems.

The editors and members of the advisory board of Genes & Genetic Systems will recommend candidate papers published in Genes & Genetic Systems in the previous year and an editorial committee will select one or two best papers from them for the GGS prize.　The authors of the papers will be awarded memorial goods and certificates.　The first prize will be awarded for the papers published in 2004.

2004年度日本遺伝学会　会費納入についてのお願い

本会の会費は前納をたてまえとしております．2004年度分（Genes & Genetic Systems Vol. 79 を含む）の会費を，御納入下さいますようお願いいたします．学生会員の方は在学証明書かそれに代わるもの（振替用紙の通信欄に指導教官などの署名・捺印）をお送り下さい．

1 年以上の滞納者は会則第 5 条によって会員の資格を失いますのでご注意下さい．

記

普 通 会 員	10, 000円
学 生 会 員	6, 000円
外 国 会 員	10, 000円
機 関 会 員	15, 000円
賛 助 会 員（1 口）	20, 000円

〒411-8540　静岡県三島市谷田1111
国立遺伝学研究所内
日 本 遺 伝 学 会
電話　055-981-6736
FAX　055-981-6736

振替口座番号　00110-7-183404
加 入 者 名　日 本 遺 伝 学 会

この納入のお願いは本会記事綴じ込みのもので，すでに会費を
納入された方にも，お送りいたしております．失礼の段お許し下さい．

日本遺伝学会 入会／変更 申込書

年　月　日

日本遺伝学会会長殿

氏　名 （楷　書）	ふりがな
	印
	ローマ字
生年月日 （西　暦）	年　月　日生

いずれかの○に✓をご記入下さい．

○貴学会に入会したいので必要事項を書き添えて申し込みます．

○異動がありましたのでお知らせ致します．

住　所（自　宅）〒

住　所（英文字）

電話　FAX　E-mail:

所属及職名

勤務先（英文字）

勤務先所在地　〒

勤務先所在地（英文字）

電話　FAX　E-mail:

雑誌送付先　〒

最終学歴と卒業／修了年

現在の専門分野

加入学会名（本学会以外の）

紹　介　者（日本遺伝学会会員）

- 変更届の方は，記入の必要はありません．
- 紹介者となる会員名をご記入下さい．なお，不明な点がありましたら日本遺伝学会事務所にお問い合せ下さい．

入会希望者は本申込書（申込書用紙はコピーでも可）と同時に会費1年分10,000円を日本遺伝学会（〒411-8540 三島市谷田 国立遺伝学研究所内）へお送り下さい．学生の方は在学証明書又はそれに代わるもの（指導教官の署名・印など）をお送り下されば学生会員として扱います（会費6,000円）．会費納入後に入会承認書をお送りいたします．

「振替口座　00110-7-183404　　加入者　日本遺伝学会」

〒411-8540　静岡県三島市谷田 1111　国立遺伝学研究所内

日　本　遺　伝　学　会

電話　055-981-6736　　FAX　055-981-6736

◆会　員　異　動◆

新　入　会

猪子　英俊	259-1193	神奈川県伊勢原市望星台 東海大学医学部基礎医学系分子生命科学
JO HYUN JA		Seodaemun P.O Box 289, Seoul 120-600 Korea
SOHN KEE-SEOK		Seodaemun P.O Box 289, Seoul 120-600 Korea
淀江賢一郎	691-0076	平田市園町沖ノ島1659-5 島根県立宍道湖自然館
小幡　裕一	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所バイオリソースセンターリソース基盤開発部

住　所　変　更

山本　大介	305-8634	茨城県つくば市大わし1-2 （独）農業生物資源研究所 発生分化研究グループ発生機構研究チーム
鈴木　　徹	569-1118	大阪府高槻市奥天神町3-5-15
河瀬　真琴	305-8602	つくば市観音台2-1-2 農業生物資源研究所
野田　健一		茨木県牛久市上柏田3-68-2　ハイツサンパーク106
太田　聡史	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所バイオリソースセンター情報解析技術室
小木美恵子	145-0065	東京都大田区東雪谷2-19-1　フロントリー502

退　　会

久保寺直也，橋本　優，太田泰雄，松田忠男，金　秀良，大東義徹，辻　秀雄，竹内哲郎，寺坂　治，片山平，古賀克己，西岡泰三，鈴木秀穂，古瀬浩介，池本　始，津田雅孝，鈴木　徹，金谷信宏，藤沢敏孝，日本大学松戸歯学部図書館，東京大学教養学部自然科図書室，跡見学園女子大学短期大学部図書館，（独）森林総合研究所関西支所，佐賀医科大学附属図書館，島根県立宍道湖自然館，帝京大学薬学部図書館

寄贈図書・交換図書

Danish Medical Bulletin	Vol. 50	No. 4	(2003)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 9	No. 6	(2003)
Annual Report 2003			(2003)
PROCEEDING OF THE INDIAN NATIONAL SCIENCE ACADEMY	Vol. 69	No. 4	(2003)
統計数理	Vol. 51	No. 2	(2003)
科学	Vol. 74	No. 1 (2004) ～ Vol. 74	No. 3 (2004)

（鈴木真有美）

『木原先生記念碑建立へお力添えを』

末本　雛子
連絡先　〒606-8313
京都市左京区吉田中大路町 6
電話　075-771-5418

吾が家の梅も満開！　寒い日があっても，春はもうそこまでの気分で……．お障わりなくお過ごしでしょうか．
私一寸お知らせしておりましたが，昨年末一ヶ月近く京大病院に入院加療しておりました．（でももう元気，ご心配なく　100%とはいえませんが）

その間，“死”と対決したこともあって，自分の人生を省みて考え込んだり，逝かれた方々のことをいろいろ深く思い出したりしておりました．

退院して自宅静養中のそんな私のところへ嬉しいニュースが二つ!!

その一つ．“木原均博士記念碑”建立!!
エッ！　ホント！　そんなことあるの？

東京女高師時代の後輩の年賀状で，みつけたのです．早速遺伝関係の方たちに聞いてみましたがご存じない様子，そのうち木原ゆり子様から詳しいニュースが届きました．

もう一年も前からその準備が始まっている由．
先生のご業績の顕彰というよりは先生の“科学する心―未知への好奇心”を次代の子ども達に伝えたいというのが建立の出発点とか，そしてそれは全く市民の中から起こってきたとか……云々．

早速研究室関係の二，三の方たちとご相談しました．そして“市民の中から起こってきた”ということは素晴らしい，それをこわさないように，仲間に入れて頂いて“少しでも”お力ぞえをということになりました．

発起人の方たちのお力ぞえのお願い状同封させて頂きました．（以下略）

「木原　均　博士　記念碑」建立についてご協力お願い

木原　均博士は，日本が生んだ世界的な科学者で，20世紀の植物遺伝学に多くの足跡を残されました．

このたび，私たちは博士の業績を歴史に刻むとともに，次世代にメッセージを伝える目的で，記念のモニュメントをゆかりの地：「横浜市こども植物園（旧木原生物学研究所跡地）」に建立する運びとなりました．地元横浜の市民有志，直接・間接に博士から教えを受けた人々，映画「カラコルム」を見て学術探検に憧れた人々など，さまざまな思いをもって博士を敬愛するおよそ60名が呼びかけ人としてこの計画に参加しております．

遺伝学研究に大きな業績を残された木原博士は，京都大学退官後，京都から横浜に木原生物学研究所を移し，晩年に至るまで，日々旺盛な好奇心で科学の夢を追い続けた学者でした．特筆すべきは，その活動が専門の学問分野にとどまらず，学術探検家として日本のフィールドサイエンスのさきがけとなったこと，また，スポーツマンとして日本のスキー界の草創期から生涯にわたって国際舞台で貢献されたことなど，当代稀な幅の広い学者であったことです．木原博士には「三つの顔」があると評されたゆえんです．

「記念碑」は，博士の三つの顔を表現する基本のモニュメントと，“不思議発見の喜び”と“驚くことの大切さ”を伝える次世代向けのモニュメントを組み合わせて構成されています．碑の構造は，博士の好んだ中央アジア乾燥地帯のレンガ壁をイメージし，これに何枚かのプレートをはめ込んだデザインを予定しております．

つきましては，趣旨にご賛同の上，建立のための基金にお力添え賜りたくお願い申し上げます．ご参考までに関連資料を同封いたしますが，さらに詳しい情報につきましては事務局にお問い合わせ下さいませ．なお，ご希望により，ご賛同者のお名前は感謝を込めて碑に刻ませていただく所存でございます．

厳しい社会情勢のさなかではございますが，どうか夢を育む事業にご理解とご支援をお願い申し上げます．

2004年 2 月

「木原均博士記念碑」建立準備会代表　三木　壽子
元・花粉学会会長

日本遺伝学会会則

第1条　本会は日本遺伝学会と称する．
第2条　本会は遺伝に関する研究を奨め，その知識の普及を計ることを目的とする．
第3条　本会は事務所を静岡県三島市谷田，国立遺伝学研究所内におく．
第4条　本会に入会しようとするものは住所，氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと．
第5条　本会会員は普通会員，機関会員，賛助会員および名誉会員とする．毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは6,000円）を，機関会員は15,000円を，賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること．会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする．
第6条　本会は次の者を総会の決議により名誉会員とすることができる．
　本会に功労のあった者．外国の卓越した遺伝学者．
第7条　本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する．
第8条　本会は毎年1回大会を開く．大会は総会と講演会とに分け，総会では会務の報告，規則の改正，役員の選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする．
　大会に関する世話は大会委員若干名によって行い，大会委員長は会長が委嘱する．大会は臨時に開くことがある．
第9条　本会は各地に談話会をおくことができる．
第10条　本会は会長1名，幹事若干名，会計監査2名の役員，および評議員若干名をおく．
1）会長は本会を代表し，会務を統轄する．
2）会長は，評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される．
3）評議員は，普通会員による直接選挙で選出される．
4）幹事は，会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される．
5）会計監査は，会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される．
6）会長は評議員会を招集し，その議長を務める．幹事は評議員会に出席するものとする．
7）評議員会は，会員を代表して，事業計画，経費の収支，予算･決算，学会誌の発行，大会の開催，その他重要事項について審議し，出席評議員の過半数をもって議決する．
8）会長ならびに幹事により幹事会を構成し，会長がこれを代表する．
9）幹事会は，学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に，会務を執行する．
10）会計監査は，学会の会計を監査する．
第11条　役員および評議員の任期は2カ年とする．会長および評議員は連続三選はできない．
第12条　本会の事務年度は暦年による．
付則　平成7年10月13日に第5条を改正し，平成8年1月1日から施行する．

本誌の発行に関しては平成15年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）をうけているので，ここに付記する．

Genes & Genetic Systems　第79巻 第1号（付録）
2004年2月25日発行　販価3,000円（本誌共）
発行者　石和　貞男・品川日出夫
印刷所　レターブレス株式会社
〒739-1752　広島市安佐北区上深川町809-5番地
電話　082（844）7500
FAX　082（844）7800

発行所　日本遺伝学会
静岡県三島市谷田1111
国立遺伝学研究所内

学会事務取扱
〒411-8540　静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内
日本遺伝学会
（電話･FAX　055-981-6736
振替口座・00110-7-183404
加入者名・日本遺伝学会）

国内庶務，渉外庶務，会計，企画・集会，将来計画，編集などに関する事務上のお問い合わせは，各担当幹事あてご連絡下さい．

乱丁，落丁はお取替えします．